

小学校

地域教育懇談会・理科フィールドワーク「奈良公園の自然に親しもう」

— 親子・教員・地域の自然観察ボランティア合わせて280名がにぎわう —

附属小学校・教諭

井上龍一

附属小学校では、「保護者・地域 保護者と地域の参加に開かれた学校に」ということで、3年間、地域教育懇談会を開いてきました。今年度は、親子参加型のフィールドワークとして、6月3日

(土) 9時30分から11時30分の間、「奈良公園の自然に親しむ(飛火野周辺)」を行いました。5月16日から22日の期間に呼びかけたところ、附属小学校の親子と地域からの一般参加も含めて、その数は280名を越えてしまうほどでした。

教育懇談会としては、フィールドワークの道すがら、自然観察をしながら、うちの人同士でいろいろな話をしたり、子どもを通してふれあいを深めたりしてきましたことはとても有意義でした。理科フィールドワークとしても、附小の理科教育を広める、地域の自然を知ることの大事さを働きかけることができた良い機会になりました。

奈良公園はシカと共存する自然としておもしろいこと、その中で、日本の昔からの生き物で成り立っている自然(在来種の宝庫、大木)でもあります。

今回は大勢の人で自然を観察するの

で、3つのグループに分け、飛火野周辺の短いコースを設定し、4つのチェックポイントで、理科部と急遽御願した自然観察ボランティアの先生とで案内する形で進めました。

ポイント1では、年を経るとトゲがなくなるヒイラギ、鹿線を作る木・作らない木について、ポイント2では、キビタキなどの野鳥の声、オオセンチコガネのような糞虫を、ポイント3では、モリアオガエルの吸盤体験やモリアオガエルの卵塊、鹿線のない森の姿を、そして、ポイント4では、特徴的な林床植物として南方系のナチンダ、ひときわ花の目立つヤマゴボウを観察課題にしました。

最後に、飛火野に戻り、まとめの会として、〇×クイズによる自然観察のふりかえり、さらに発展して、たかまどの会から「奈良の自然調べ隊」の呼びかけもあり、賑やかに終えることができました。多くの参加者から感想をいただきましたので、少し紹介します。

子どもたちの感想

「ちょっとあつかったけど、カエルも

見たし、シカも見たし、まつぼっくりも見れて良かったです」(2年生)、「モリアオガエルのきゅうばんがペトツとしていた。ふん虫がすごくきれいだった」(3年生)、「奈良公園の広さがすごく広かったのでびっくりした。知らない花がいっぱいあったので、図鑑で調べてヒイラギの名前を見て調べてみると、なかったので、ヒイラギの花はめずらしいのかな



熱心にカエルの話を聞く参加者

あ。調べてみたいです。今日は楽しかったー」(5年生)、「いろんな自然のことがわかって良かった。モリアオガエルの卵から無事にオタマジャクシが産まれると良いですね。池に水が貯まるように！カエルがかわいかった」(6年生)。

大人の方の感想

「ディアライン、様々な小鳥など大人でも知らないことが多いですね。みんなと歩くことも少数で歩くより、いろいろ話せて楽しく、先生方がいろいろ準備してくださったこと、ありがたかったです。生ガエルは久しぶりでした」、「森林の乾燥化が進んでしまい、モリアオガエルの池が干上がってしまったのには驚きました。何とかその貴重な森が保存されるように活動したいと思いました」。

このフィールドワークを契機に、地域の方と学校がつながり、地域の自然を知る活動として発展できたらと思います。たかまどの会から「奈良の自然調べ隊」の呼びかけはその第一歩として心強いです。